

**令和 5 年度
ぶんか高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室
事業計画**

第 8 期最終目標

- 正しく「老い」を理解し前向きに「老い」に対する準備を始める高齢者、健康で自立した生活を心がける高齢者が増える。
- 気軽に参加できる集まりが増え、介護予防、認知症予防、趣味活動等の場が広がっている。
- お互いさまの気持ちを活かした、住民同士の助け合いや、見守り等のネットワークの輪が広がっている。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する 後期高齢者人口
31,739 人	8,662 人	27.3%	4,905 人	56.6%

5 年度の到達点

- 既存のネットワークをさらに拡充させ、地域みまもりの体制や支え合いの仕組みを充実させていく。
 - ・ 地域で活動を希望されている人と、自主活動グループ等の支援のニーズのマッチングを行い、支え合い、みまもりの輪を広げていく。
- 第 8 期ケア計画に基づいた、推進事業の実施。
 - ・ 各事業に即した講座や事業の計画的に実施し知識の普及を図る。各事業間に横のつながりを持たせ、事業が単発、縦割りで終わらせることなく実施する。
 - ・ 地域の協力者、介護事業者、関係機関の協力を得て、社会資源リーフレットの充実を図る。
 - ・ 地域住民、関係者の地域資源リーフレットの活用を充実させる。

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

5 年度の 取組の視点	○窓口では介護保険・高齢者施策等の相談が概ねを占めるが、これらのサービスに限定することなく地域の社会資源の活用なども考慮し、適切なサービスにつなげていく。	
	○関係諸機関、近隣からの情報提供等にも、見守り相談室と協力し適切に対応していく。また初回相談のみで終了しているケースに関しても、モニタリング、継続支援の必要性を確認する。	
	○年々困難化するケースの増加に対し、各専門職、関係諸機関と連携し解決に努めていく。	
結果	新規相談件数 ○件（前年度 ○件）	継続相談件数 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

2 権利擁護

5年度の 取組の視点	<p>○虐待防止ネットワーク推進のため、弁護士を交えた事例検討会を年4回実施する。介護事業所より事例を募り、困難事例に対応する支援者の支援を行う。</p> <p>○成年後見制度啓発の為に講座を2回実施する。</p> <p>○消費者被害の防止の為に、住民向けの啓発を書面、または講座で行う。</p>	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） ○件 （前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む） 件数 ○件 （前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

5年度の 取組の視点	<p>○昨年度の研修アンケート・個別会議の結果や日頃の困難事例や虐待事例等のケアマネ支援状況を集計し、居宅支援事業所のニーズに合わせた研修や事例検討会やぶんかカフェを活用して情報交換会等を実施していく。</p> <p>○アセスメント力向上に向けた研修や事例検討会等を年4回以上開催する。権利擁護・社会資源活用・介護予防・認知症の視点で各職種と連携し、協働して開催。</p>	
結果	ケアマネジャー向け研修 ○回（前年度 ○回）	事例検討会 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

5年度の 取組の視点	<p>○予防プランの再委託率 35%以上を維持する。</p> <p>○個別ケア会議年5回開催。居宅支援事業所の参加を促し、自立支援についての意識を高める。</p> <p>○総合事業サービスの情報整理をし、情報提供をしていく。</p>	
結果	プラン件数（自己作成） ○件（前年度 ○件）	プラン件数（委託） ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

5 認知症支援

5年度の 取組の視点	<p>○認知症の人と家族会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たちばな・みかんの会を偶数月・年間 6 回開催。ピアカウンセリングとストレス緩和、癒しに関連するミニワークショップの開催。 ・ ぶんか・みかんの会を年間 4 回開催（6月、10月、12月、2月） <p>R5 年度からは『カフェ形式』とし、認知症の人、家族ばかりではなく、地域の支援者にも参加していただきながら、認知症に関する知識の普及・ワークショップ等を企画。地域の支援者やボランティアとのつながりを広げていく。</p> <p>○認知症普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般向け認知症普及啓発講座年 8 回以上開催。 ・ 本センターでの実施にとどまらず、公共施設での開催を計画し、住民が参加しやすい工夫をする。 ・ 令和 4 年に引き続き、『楽しみながら認知症を学ぶ』をテーマに開催する。 ・ 専門向け認知症普及啓発講座年 3 回以上開催。 ・ 認知症サポーター向けフォローアップ講座『オレンジ勉強会』を 2 回開催し、カフェや自主グループでの活躍する機会につなげていく。 ・ 介護事業者向け講座を 1 回以上開催する。 <p>○認知症サポーター養成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当地区内の小学校・地域の事業者・住民へ年間 10 回開催する。 	
結果	認知症サポーター数 ○人（前年度 ○人）	家族介護者教室 回○（前年度 ○回）
次年度以降の 取組の方向性		

6 地域ケア会議

5年度の 取組の視点	<p>○昨年度実施した個別ケア会議の振り返りを含めた、自立支援に向けた地域ケア個別会議および、総合相談などから地域の課題、ニーズを抽出し個別ケア会議の開催につなげる。1 年間を通し 6 回以上開催する。</p> <p>○地域課題の共有・対応の協議、推進事業の実現に向けた地域ケア推進会議を年間 5 回以上開催する。</p>	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の 取組の方向性		

7 生活支援体制整備事業

5年度の 取組の視点	<p>地域における課題の把握及び整理を行い、課題解決、改善に向け、以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会資源リーフレット 10 種類を更新する。最新の情報とニーズに応じた新たな情報の収集、追加をする。リーフレット設置場所を開拓、ホームページ掲載などネットを活用し、広く情報提供し必要な情報を選び活用できるようにする。 ○地域住民主体の地域のことを話せる、知る場、活躍したい方の創出に取り組み、地域や住民への関心を深め、様々な繋がりができる機会を作る。 ○生活支援コーディネーター連絡会に参加し、他センターの情報収集と圏域の課題、墨田区の課題の把握、検討を行う。 	
結果	交流・通いの場 ○件（前年度 ○件）	
次年度以降の 取組の方向性		

8 見守りネットワーク事業

5年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○救急通報システムの設置勧奨と併せて、ひとり暮らし高齢者に実態把握訪問を 1,200 件実施する。 ○圏域内におけるマンション、民間集合住宅等のオーナー・大家・管理人等とネットワークづくりを行い、認知症等の支援を早期に開始できるようネットワークを拡充する。 	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

<圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1… 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実 | 2… 介護予防の推進 |
| 3… 介護サービスの充実 | 4… 医療との連携強化 |
| 5… 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 | |

事業名 見守りの輪を広げよう～オレンジの輪～プロジェクト		施策の方向性：1, 2
背景となる課題	<p>○令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、本人または家族に認知症状がある人がいると回答した人が10.9%で、8圏域で最も多い。</p> <p>○ボランティアの活動が少なく、周知も不十分である。</p> <p>○認知症高齢者の相談が増加しており、認知症ケアの向上が必要である。</p> <p>○認知症サポーターが少なく、認知症の理解を深める「オレンジ勉強会（認知症サポーターフォローアップ講座）」の参加者が少ない。</p>	
事業内容	<p>○「オレンジ勉強会」を定期的に開催し、地域で認知症の人とその家族を支えるしくみについて学んでいく。また、認知症の人と共に楽しめるイベント、認知症の人とその家族を支えるための社会資源などについて学び、事業の展開へと進めていく。</p> <p>○地域住民に認知症に関する正しい知識の普及に努める。</p> <p>○認知症の人と家族の会『ぶんか・みかんの会』をカフェ形式とし、地域の支援者と本人、家族が交流できる場所へと発展させていく。</p>	
4年度事業実績 (アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム) R5.1.31日段階	<p>○オレンジ勉強会 4回開催（みまもり協力員勉強会1回含む） 延べ 27名参加。 アンケートより満足度 66.7% ・勉強を続けていきたい 100% 地域の支援に協力したい 60% 検討中 40% 不可 0%</p> <p>○10月・11月 認知症疾患医療センター・中村病院とともにカフェを2回開催 オレンジ勉強会からカフェ協力者 延べ4名 カフェ参加者 30名（15名×2）</p>	
5年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 (人・場所等必要な資源)	<p>○オレンジ勉強会 (人) 高齢者支援総合センター職員1名・みまもり相談室職員1名・中村病院専従相談員1名 (講師依頼) ・認知症サポーター養成講座卒業者・地域の協力者。 (場所) ぶんか高齢者支援総合センター</p> <p>○ぶんか・みかんの会カフェ (人) 高齢者支援総合センター職員2名（認知症地域支援推進員・生活支援コーディネーター・みまもり相談室職員・中村病院専従相談員・オレンジ勉強会参加者） (場所) ぶんか高齢者支援総合センター (必要物品) 当センターふれあい活動室備品（コーヒーマーカー・ポット・カップ等） 消耗品としてコーヒ豆・日本茶・紅茶・砂糖・ミルク等</p>
	5年度活動計画	<p>○オレンジ勉強会 ・オレンジ勉強会回数と参加者延べ数</p>

	(アウトプットの目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート実施により満足度の確認 ○ぶんか・みかんの会カフェ ・参加者延べ数とアンケートによる満足度の確認 ・支援者・支援機関の延べ数
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ○オレンジ勉強会。 ・オレンジ勉強会参加者の、事業やカフェでのボランティア協力人数。 ○ぶんか・みかんの会カフェ。 ・参加者のリピーター数の把握（認知症の人・家族・関係者・支援者）
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（アウトカム目標の達成状況）	

事業名「老活のすすめ」気ままに体操123プロジェクト		施策の方向性：1, 2
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人が地域のつながりが必要と感じているものの、つながりが希薄になってきており情報が得にくい現状がある。 ○地域の高齢者や家族が、地域に存在する日常生活支援サービスを知らない。 ○令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、地域活動に参加しやすい条件として、「時間や期間にしばられない」「身近なところで活動できる」「金銭的な負担が少ない」等の理由をあげる人が多い。 	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○皆で持ち寄った地域にある様々な社会資源情報やアンケート結果などをまとめ、発信することで情報活用を促進する。 ○社会資源をまとめたリーフレットを随時更新するほか、新たなリーフレットを発行する。 ○多目的室の空き時間を活用し、少人数・交代制による介護予防ダンス教室を開催する。 ○ダンス参加者を対象に4回の「老活講座（運動の自己調整・口腔ケアと栄養・認知症予防・聴力について）」を開催する。 ○参加前後に体力測定を行い、効果を測定していく。 ○自主性・主体性を促し、継続できる仲間づくりを支援する。 	
4年度事業実績（アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<p>1 社会資源リーフレット：担当地域内約40か所/8種類設置（3種類休止中、認知症編は号外にて対応）更新は年1回（8種類）新規：在宅療養の流れ（2023年2月発行予定）/新規：高齢者の為のペットに関する情報を作成予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活用実績（2022.4～2023.1延べ数）2784部利用（お役立ち：485部・住まい施設：387部・配食：383部・老活、終活：375部・見守り：287部・配達：273部） ・ 実績事例（相談時、訪問時のアンケートより）119事例 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容：女性 86 名/後期高齢者 86 名/本人 84 名/文花 1 丁目 48 名・立花 1 丁目 32 名 ・ 主な相談項目：自費ヘルパー（急な買物、通院同行等）配食サービス（買物出来ない、食事作れない等）施設探し/成果：「お役立ち」「配食」「住まい」等リーフレットで情報提供。必要なサービス情報を得ることで老いに対する準備が出来た。 <p>2 気ままに体操 123</p> <p>○カラフル・ポップ・ダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R4 年 10/26 の説明会から開始し、R5 年 2 月末日までに○回実施。実参加者 8 人 開催日数 36 階 延べ参加者数 134 人 ・ 体力・認知機能測定：1 回目 R4 年 11/2 参加者数 8 人 2 回目 R4 年 2/2 参加者数 6 人 計 2 回実施 <p>講座：「口から始める健康づくり」R4 年 12/15 開催 参加者 4 人</p> <p>○ダンスリーダー養成講座</p> <p>老人会、サロン等の活動の中で気軽に身体を動かしてもらおうダンス DVD を、世話人、リーダー向けに提供するための養成講座を開催した。R4 年 10/5 10/12 2 回開催 6 グループ参加</p> <p>○元気に歩く体操</p> <p>R4.6～R5.4 まで、第 2、第 4 月曜日開催。全 20 回予定（1/23 現在 14 回実施） R5.1/23 現在 参加者数 実 12 人 延べ 122 人</p> <p>体力測定：1 回目 R4.6/20、2 回目 R4.12/19、3 回目 R5.4/上旬予定</p> <p>講座：「口から始める健康づくり」R4 年 12/15 開催 参加者 2 人</p> <p>（※文花・立花ウォーキングに参加したメンバー 3 名、ウォーキング習慣への結び付けを図れた）</p>
5 年度の取り組みの指標と方向性	<p>投入資源（人・場所等必要な資源）</p> <p>1 社会資源リーフレット</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スタッフ：高齢者支援総合センター職員（生活支援 CO）1 人 高齢者みまもり相談室職員 2 人、掲載事業所（会社）（ネットワーク） ○配布方法：スーパー、コンビニ、医療機関、薬局等、ネットワークを利用し設置する。 個別相談、実態把握訪問に配布。電話相談では、設置場所を知らせる。 ○法人ホームページに掲載し、インターネットを活用して情報提供。利用者、家族による QR コードでの情報獲得予定 <p>2 気ままに体操 1 2 3</p> <p>○ダンス事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー養成講座 1 回 ・ブラッシュアップ講座 2 回（うち 1 回は、R4 年度養成講座履修者） <p>○「足はやプロジェクト」（仮称）</p> <p>食習慣、運動習慣、思いやりチャレンジなど、生活習慣や良い睡眠等の改善を図りながらチームで取り組む介護予防。</p> <p>開催場所：ゆうゆう館（予定）</p> <p>開催内容：体力測定、10m歩行、運動、講座、交流会等 5 回講座で 1 クール開催</p>

		○元気に歩く体操：R5.5～R6.3月の第2、第4月曜日。同日入れ替えて2コース実施。
	5年度活動計画 (アウトプットの目標)	1 社会資源リーフレット <ul style="list-style-type: none"> ○ 掲載事業所の増加（多種多様な高齢者のニーズにあったサービスの提供の確保） ○ インターネット、スマートフォンアプリを活用した社会資源の情報提供 ○ 発行部数の増加に伴い、高齢者の老活に関する関心を高める 2 気ままに体操 123 ダンス事業他 <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動習慣や生活習慣の気づきと改善 ○ 楽しみながら、簡単に取り組める介護予防の提供 ○ チームで取り組むことで、効果やモチベーション向上を目指す
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	1 社会資源リーフレット <ul style="list-style-type: none"> ○ リーフレットの発行部数を把握し、生活に必要な情報獲得数を確認する。 ○ インターネット、スマートフォンアプリ利用をしたサービスの動向を調査 ○ 継続してリーフレット利用者の中で、老いに対する意識が向上したという事例の把握を行う。 2 気ままに体操 123 ダンス事業他 <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動器：体力測定や歩行力測定により事業実施前後の比較で効果を図る ○ 認知機能評価の実施による認知症予防 ○ チームによる取り組みとおもいやりチャレンジによる自主化への発展
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（アウトカム目標）の達成状況	

事業名 ぶんかカフェ事業		施策の方向性：1, 2, 3, 4, 5
背景となる課題	○利用者へのサービスにおいて、ケアマネジャーの自立支援の視点が不十分である。 ○ケアマネジャーや訪問介護、通所介護の専門性が曖昧になっている。	
事業内容	○「気軽な雰囲気」「話しやすい雰囲気」で介護、医療事業者や民生委員・児童委員、見守り協力員が気軽に意見交換ができる場を作る。 ○ケアマネジャーには認知症家族会、見守り協力員勉強会、民生委員・児童委員交流会への参加をすすめ、多角的な視点で利用者を捉える機会と、スキルアップや連携強化につなげる。	

<p>4 年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム) R5.1.31 日段階</p>		<p>1 「荒川氾濫への備え」をテーマに多職種連携して検討を3回行った。①6/9(木)12職種53名②9/29(木)9職種14名③11/18(金)8職種11名の参加があった。 介護医療サービス事業所、入所施設関係者 ①は長野県の豊野事業所のケアマネジャーを講師として招き、2019年台風19号の際の対応とその後業務に取り入れていることについてZOOMにて講演をもらった。その後、ブレイクアウトルームを活用して、グループワークを実施。②避難のマイタイムラインを3グループに分かれて作成。③避難後の支援についてグループワークを実施 ①②では避難についての話し合いが深められた。③では、「考えたことが無かった」という感想があり、避難後の支援について考える気づきに繋がった。</p> <p>2 「なんでも情報交換会」は、ZOOMを活用してセンターと相談室職員で4回開催。①6/1(火)3職種6名②9/1(木)3職種5名③12/1(木)4職種6名。薬剤師、配食業者、通所介護、居宅支援事業所等多職種の参加を得られた。「顔の見える関係が連携のしやすさに繋がる」という声が聞かれた。 ④3/1(水)(予定)</p>
<p>5 年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性</p>	<p>投入資源 (人・場所 等必要な資 源)</p>	<p>○「荒川氾濫への備え」 避難前、避難後を想定した事例でグループワークを行うワークショップを2回実施予定。ぶんか高齢者支援総合センター多目的室を活用。センター2名、相談室1名。 ○「なんでも情報交換会」 年間3~4回実施予定。ZOOMを活用する。センター2名、相談室1名。</p>
	<p>5 年度活 動 計 画 (アウトプ ットの目標)</p>	<p>○「荒川氾濫への備え」 災害への備えをテーマとしてグループワークを通し、日頃の連携のしやすさに繋げる。 ○「なんでも情報交換会」 気楽に「つぶやき」ができる場として開催し、顔の見える関係から連携のしやすさに繋げる。 1、2共に、連携のしやすさのアンケートを実施。</p>
	<p>成果(アウ トカム)を 測る指標 及び目標</p>	<p>○「荒川氾濫への備え」 ○「なんでも情報交換会」 アンケートから具体的な連携のしやすさに繋がった効果を確認する。</p>
<p>実 施 結 果</p>	<p>活動の実績 (アウトプ ット)</p>	
	<p>成果(アウ トカム目標 の達成状 況)</p>	

事業名 自分の健康は自分で守るプロジェクト		施策の方向性：1, 2, 3, 4
背景となる課題	<p>○在宅療養（往診情報）通院が困難になった時や在宅で終末期を過ごしたい時必要となる情報が少ない。</p> <p>○往診・訪問看護・在宅看取り等様々な医療の仕組みがあることの周知が十分でない。</p> <p>○令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養が必要になった場合の在宅療養を希望する人が5割を超える（8圏域で3番目に多い。）が、希望する人のうち在宅療養の実現は難しいと考える人は4割を超えている。（8圏域で3番目に多い。） ・かかりつけ医がいない人の割合が多く、訪問診療の認知度について「初めて聞いた」人が多い。（8圏域で最も多い。） 	
事業内容	<p>地域住民向けに、前向きに「老い」を理解してもらうための講座を年2回開催する。</p> <p>○健康診断の検査結果の見方について、医療関係者による講座を開催し、健康診断の重要性、かかりつけ医を持つことの重要性を周知する。</p> <p>○口腔ケア、栄養の話を中心に加齢による身体の変化を学ぶ講座を開催する。</p>	
4年度事業実績 （アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<p>○年2回の講座実施。</p> <p>URコミュニティと連携し、立花1丁目団地の集会所で行った。 2022年7月29日14:00～15:30「自分の身体を知ろう！」講師：織田保健師 参加者：地域住民15名（男性2、女性13）</p> <p>○2022年10月21日14:00～15:30「美味しく食べてハツラツ生活」 講師：築山看護師、ひばり薬局 日高管理栄養士 参加者：地域住民8名（男性2、女性6）</p> <p>○みまもりだより6月号に健康診査受診を勧める内容を記載 アンケート結果：2回とも参考になったと意見が100% 講座を受けて取り組んでみたいと思う事があったと言う意見が50%以上であった。 みまもりだよりの掲載については効果の測定ができないが、講座に参加希望するもともと健康意識の高い方以外への呼び掛けにはなったのではないかと推測される。</p>	
5年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 （人・場所等必要な資源）	<p>講座を2回実施。参加対象者：地域住民 定員15名</p> <p>場所：ぶんか支援センター 1回目</p> <p>講師：1回目 包括支援センター 保健師、2回目 栄養士</p> <p>資料：PP資料作成</p>
	5年度活動計画 （アウトプットの目標）	<p>8月「自分の身体を知ろう」講座実施</p> <p>12月「おいしく食べてハツラツ生活」講座実施</p> <p>事前にチラシを作成。町会、自治会に周知する。</p>
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	<p>実施後にアンケートを行う。</p> <p>実施日当日にアンケート。2か月後に講座の内容が生活に役立ったかどうか、効果を確認する。</p>
実	活動の実績 （アウトプット）	

施 結 果	ト)	
	成果（アウトカム目標の達成状況）	

事業名 皆で関わろう 防災の備えプロジェクト		施策の方向性：1, 2, 3, 4, 5
背景となる課題	<p>○「高齢になること・体が衰えること」の準備が心も環境的にもできていない、介護保険や高齢者施策の住宅改修を知らない高齢者がいる。</p> <p>○大規模集合住宅への転居により、つながりの希薄化や外出機会喪失につながっている。</p> <p>○避難場所について、よく知らないという高齢者が多い。</p>	
事業内容	<p>○防災ウォーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ウォーキングを2か月に1回開催し、地域ケア会議を6か月に1回開催する。 ・災害時に避難できる体力やルートを個々人が考え、意識改革へつなげる。また、自身の体験を知人や近隣へ伝える等の見守り、ネットワークの重要性の意識向上を図る。 ・アンケート、会議での情報を通信等で周知することで、地域における防災を契機とした見守りに対する意識向上を図る。 <p>○住まいの古い仕度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2, 3か月に1回、1時間程度、10名先着順で講座を開催する。身体の変化に応じた用具の活用や住まい方を自身で考え、老後に備えることにつなげる。 ・リハビリテーション専門職を講師とした「老化における身体の変化」についての講座 ・福祉用具事業所を講師として「身体変化に応じた住まいづくり」についての講座 	
4年度事業実績 （アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<p>○防災ウォーキング</p> <p>6/2 実施：参加者 8 名、7/26 実施：参加者 3 名、9/2 実施：参加者 8 名、11/18 実施：参加者 8 名、1/19 実施：参加者 7 名。計 34 名参加。</p> <p>（参加して良かった点）避難できる体力があると確認できた 20 名、持ち出し品の準備はできている 10 名、支援が必要な人の手伝いをしたいと思った 15 名 （参加して意識は変わったか）対応する心構えができた 18 名</p> <p>避難できる体力の有無の確認や日常で気づけなかった道路状況確認し、自分は歩けたがシルバーカー、車椅子の人は手伝ってあげないと危ないという意識、備蓄品準備の必要性を感じられ防災への意識向上に繋がった。</p> <p>○住まいの古い仕度</p> <p>5/30 実施：参加者 13 名、9/6 実施：参加者 11 名、10/24 実施：参加者 11 名、12/8 実施：参加者 11 名。計 46 名参加。</p> <p>アンケート結果より、今後自身でどう対応すれば良いか理解できた 13 名、身体の変化がどう暮らしに影響するか理解できたと答えたのが 14 名、福祉用具について、今後自身でどう対応すれば良いか理解できたが 9 名、様々な福祉用具があることが理解できたが 17 名であった。歳を重ねることでの身体の変化が起きる、福祉用具や住宅改修が役立てられるのかを知ることで今後の備</p>	

	<p>えとなる、また身体が元気であるために自分が取り組めることは何かを考える機会となった。</p> <p>○地域ケア会議 参加者 10 名 アンケート結果より、「運動・体力づくりについて」 大変参考になった 5 名、参考になった 5 名 「環境づくりについて」 大変参考になった 3 名、参考になった 7 名 「意見交換を行い、今後に活かしたいことはあるか」 ある 10 名 「ある」と答えた方。どのようなことに活かしたいか」 情報収集の方法 4 名、非常用品の準備 3 名、安全な避難経路・ルートを確認する 5 名、近隣、町会に自分が得た情報を伝える 3 名、体力の維持 7 名 ・高齢者の避難支援で車いすの使用法、それ以外の方法を教えてほしい、町会・自治会にも話をしていきたいと自分自身だけのことではなく、支援への関心が高いことも分かった。</p> <p>○試してみよう車いす 車いす操作等を学び、災害時に自分自身の避難時に必要なものの知識を得る 4/20 実施：参加者 7 名 福祉用具事業者に講義と実践を学ぶ。アンケート結果より車いすを使っている方で困っていたら手助けをしたい 4 名、レンタル情報などを教えてあげたい 3 名と地域のネットワーク作りにつながった。</p>
5 年度の取り組みの指標と方向性	<p>投入資源 (人・場所等必要な資源)</p> <p>○防災ウォーキング ・人：町会・自治会、民生委員・児童委員、地域住民、介護関係事業者 ・場所：高齢者支援総合センター多目的室、活動室、町会・自治会集会所、立花ゆうゆう館、立花 1 丁目団地集会所</p> <p>○住まいの老い支度 ・人：町会・自治会、民生委員・児童委員、地域住民、訪問看護事業所、福祉用具事業所 ・場所：高齢者支援総合センター多目的室、活動室、町会・自治会集会所</p> <p>○防災試してみよう編 ・人：町会・自治会、民生委員・児童委員、地域住民、福祉用具事業所 ・場所：高齢者支援総合センター多目的室、活動室</p> <p>○地域ケア会議 ・人：防災ウォーキング参加者（町会・自治会、民生委員・児童委員、地域住民）ケアマネ、福祉用具事業所、訪問看護事業所 ・場所：高齢者支援総合センター多目的室</p>
5 年度活動計画 (アウトプットの目標)	<p>○防災ウォーキング ・開催回数と参加者延べ人数。 ・アンケートを実施し避難できる体力の有無、避難や支援などの意識変化を確認する。</p> <p>○住まいの老い支度 ・開催回数と参加者延べ人数。 ・アンケートを実施し歳をかさねることでの身体の変化とそれに応じた対応方法の理解、備えに対する意識の変化を確認する。</p> <p>○地域ケア会議 ・参加者延べ人数。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施。他者との意見交換をすることで得たこと、意識変化の確認をする。 ○防災試してみよう編 ・参加者延べ人数。 ・アンケートを実施し、災害時の備えの意識変化の確認をする。
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ・開催数、参加人数。 ・アンケートを実施し効果を測定する。 ・地域ケア会議にて、参加後の意識、生活の変化等を聞くとともにアンケートを実施し効果測定をする。
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（アウトカム目標の達成状況）	